

商業施設の仮囲いを活用した知的障がいアーティスト作品の展示について
SOCIAL ART MUSEUM ～ OKUMA GALLERY ～

<目的・経緯>

- ▶ 大熊町は、2022年春に予定している特定復興再生拠点区域（JR大野駅周辺）の避難指示解除に向けて、「ゼロからのまちづくり」に町と共に参画してくれるスタートアップ企業等を支援・共創する仕組みづくりを検討している。また、今後、町で整備予定のインキュベーション施設（大野小学校を利活用）を中心に、誘致企業とのオープンイノベーションなど町全体で企業をインキュベートする仕組みの構築を目指している。
- ▶ これらを具現化するきっかけとして、令和2年度に「大熊町復興ピッチイベント」を実施。町の課題解決や復興等に資するものとして取り組む5事業のうち、(株)ヘラルボニーが提案する「知的障がいのある作家が描くアート作品を活用し、多様性を受け入れ合うまちを目指す事業」を今般実施するもの。

◇大熊町復興ピッチイベント

<https://www.town.okuma.fukushima.jp/soshiki/kikakuchosei/15587.html>

<事業概要>

- ▶ 今般、先行してオープンする商業施設とその他施設を隔てる工事用仮囲いを装飾し、賑わい創出の一翼を担うことを目的に、全日本仮囲いアートミュージアムを運営する(株)ヘラルボニーにプロデュースを依頼。
- ▶ 同社は、知的障がいのある作家が手がけたアート作品を活用した賑わい創出事業に特化しており、それらのアート作品データを多数所有している。
- ▶ 本事業では、福島県猪苗代町の「はじまりの美術館」に収蔵されているアート作品を中心に選定し、展示する。当該美術館は2014年に「誰もが集える場所」というコンセプトを掲げ開設しており、当該コンセプトが今回オープンする商業施設や整備中の交流ゾーンのコンセプトとマッチしている。
- ▶ 知的障がい者が描くアート作品には、予定調和や先入観を破壊する力があり、それらを展示することは、原発事故の被害により、負のイメージを持たれがちな当町を、プラスなイメージに変えるためのきっかけになり得る。また、今後、福祉に力を入れる町、多様性を受け入れる町という本町が目指すべき方向性とも合致している。

◇全日本仮囲いアートミュージアム

<https://www.karigakoi-art.com/>

<問い合わせ先>

大熊町役場 企画調整課（担当：菅原、南場）

〒979-1306 福島県双葉郡大熊町大川原字南平 1717

TEL：0240-23-7584／FAX：0240-23-7844